

薬剤部この一年

薬剤部長 船 越 敏 雄

【はじめに】

17名のスタッフで、連日、当院採用薬約1,500種の「くすり」と対面している。

1日当たりの処方せん枚数は、以下である。

- ・ 院内外来処方せん 約240枚
- ・ 入院処方せん 約190枚
- ・ 注射せん 約220枚

これらに処方される「くすり」の扱い合計は、1日でも相当な種類と数量になる。古来から薬局は、正確と迅速をモットーに、患者さん、病棟に「くすり」を提供してきたが、今はそれに、「くすり」の適正使用と情報に、業務の比重を移行しながら、治療の経過と結果にも関与するよう取り組んでいる。

【業務内容】

「くすり」の性格上から、絶対間違いが無いように注意しながらの業務であるが、類似した名前と外観、そして含量の違いなどが沢山あり、緊張の日々である。まず、「くすり」を適正に供給することが我々の業務の原点であり、日頃からの『リスクマネジメント』の基本であるとの認識で、全員努力しているところである。

さて今年は、4月1日のオーダリング稼動開始に向けて、一年のスタートであった。

病院全体と処方関係の運用に対して、各自がそれぞれの持ち場で奮闘し、連日の残業も経験しながら乗り越えた。処方オーダーでは、薬品マスターの作成、各科の頻用画面の作成、処方上の取り決

め等があり、各部署の方々の協力もあり、無事に処方せん発行日を迎えた。この運用により、以下の点が明示され、稼動効果に感激しているところである。

- ・ 薬の待ち時間の短縮
- ・ 疑義照会の減少
- ・ 業務のスピードアップ
- ・ 省力化、簡素化
- ・ 調剤室の配置見直し など

これを受けて、第2と3階西の病棟業務の拡大を実施したところである。

【展 望】

平成7年、開始された院外処方せん一部発行（現在、発行率約69%）も、近日全科発行が予想されている。これにより、外来患者さんの「くすり」は、まちの調剤薬局にお任せすることになる。その代わりに、当薬局は、今以上に入院患者さん中心の業務転換となり、調剤室の人員配置と業務の見直しを検討している。これにより、さらにチーム医療に貢献できるはずである。

新たな業務展開は、以下である。

- ・ 薬剤管理指導業務の質、量拡大
- ・ 抗悪性腫瘍注射薬調整の開始
- ・ 薬品管理の充実
- ・ 情報提供の充実
- ・ リスクマネジメント など

そして、注射薬のオーダリング運用開始も予定されているので、スタッフ、職員の皆様のご知恵とご協力をお願いしたい。